

ネット系メロンのトンネル早熟栽培において多収を可能にする新技術 ～「アンデス5号」を用いた5果どり栽培～

山形県庄内総合支庁産業経済部農業技術普及課産地研究室

研究のねらい

トンネル早熟栽培は、庄内砂丘メロンの主力作型であるが、近年の気象変動で生産量が安定していない。さらに生産者の高齢化に伴い作付面積は減少傾向である。これらの問題に対応するためネット系メロン主力品種「アンデス」の4果どり栽培よりも多収となる栽培技術を開発した。

研究の成果

- ① 「アンデス5号」は、トンネル早熟栽培において5果どり栽培が可能で、主力品種「アンデス」を用いた4果どり栽培と比べ、10a 当たり収量は 30%程度増加の 4.0t 程度、10a 当たり粗収入は 100 万円程度が見込まれる（図1）。
- ② 「アンデス5号」の5果どり栽培は、小型トンネル栽培（密閉窓開け換気）でも適応性がある（図1）。
- ③ 「アンデス5号」の5果どり栽培では、子づる1本に3果を着果させた場合と2果着果させた場合の果重及び糖度はほぼ同等である（図2）。
- ④ 「アンデス5号」の5果どり栽培は、従来の方法より摘果及び整枝を省力的に行うことができる（図3）。

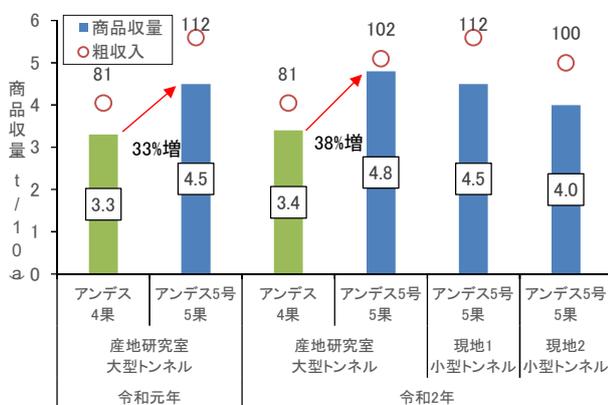


図1 商品収量及び粗収入

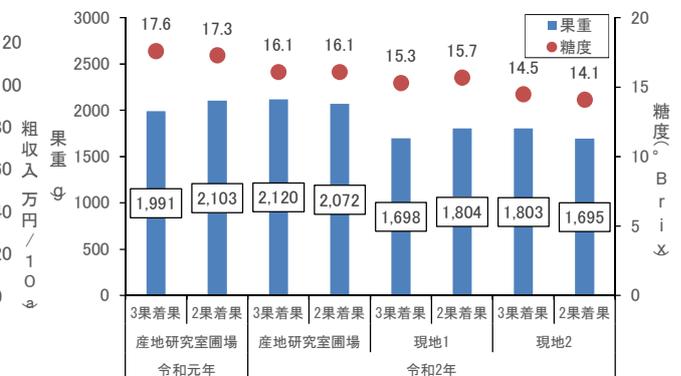


図2 「アンデス5号」の子づる1本当たりの着果数の違いによる果重及び糖度

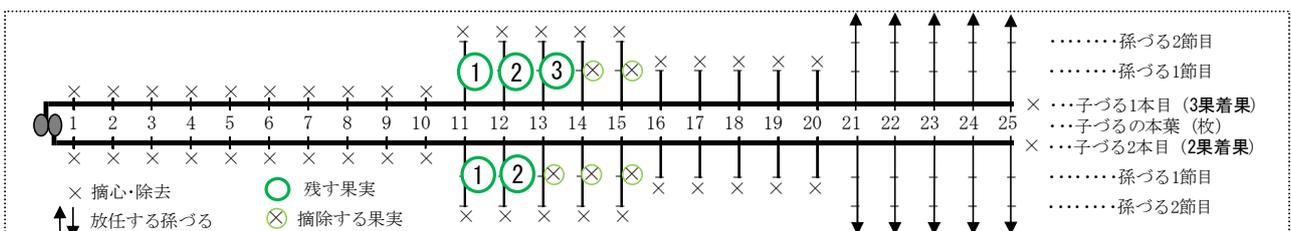


図3 「アンデス5号」の5果どり栽培における省力的な摘果及び整枝方法の模式図

【省力的な摘果及び整枝方法の概要】

- ① 子づるの本葉 11 枚目から 15 枚目の孫づる 5 本は、着果枝として必ず残し確実に着果させる。
- ② 着果後は、2 本の子づるにそれぞれ 3 果と 2 果を残し、不要になった着果枝（孫づる）は果実のみを摘除する。
- ③ 子づるの本葉 21 枚目から 25 枚目の孫づるは、放任する。

問い合わせ先：園芸研究担当 TEL:0234-91-1250 e-mail:yshonaisanchi@pref.yamagata.jp